

知的障害特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践

企画者・司会 渡邊 貴裕（順天堂大学スポーツ健康科学部）
話題提供者 石川 敦士（東京都立練馬特別支援学校）
古川 文彦（千葉県立東金特別支援学校）
尾高 邦生（東京学芸大学附属特別支援学校）
指定討論者 牛尾 眞一郎（千葉大学教育学部附属特別支援学校）

KEY WORDS: 知的障害, 特別支援学校, オリンピック・パラリンピック教育

【企画趣旨】（渡邊貴裕）

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、様々な準備がすすめられており、特に学校教育現場においてはオリンピック・パラリンピック教育（以下、オリパラ教育と記す）が展開されている。オリパラ教育を通じて期待される社会像としては、障害を通じたスポーツへの参画の拡大、障害者スポーツを含むスポーツに対する国民の関心の向上、フェアプレー精神、マナー、おもてなし精神の滋養、異文化理解、国際理解、多様性の尊重等をあげられる。学習内容としては、歴史、競技種目、オリンピック精神といったオリンピック・パラリンピックについて学ぶ内容もあれば、一方でスポーツの価値、他者への共感、おもしろいといったオリンピック・パラリンピックを通じて学ぶ内容といった二つの側面がある。知的障害特別支援学校におけるこの教育の効果的、継続的な実施のための方策については、モデル校による実践報告等がいくつかみられるが、教材開発や授業方法、ICTの活用、アスリート派遣や競技体験の実施、地域スポーツ施設・団体との連携を通じ、今後も実践を積み重ねていく必要がある。そこで、本自主シンポジウムでは、知的障害特別支援学校において実践されている、オリパラ教育の実践を紹介するとともに、その教育的効果等について検討する。

【話題提供】

1. 東京都立練馬特別支援学校でのオリパラ教育の取組み（石川敦士）

東京都では平成28年度から都内全校でオリ・パラ教育を全校で実施することになっている。これに先駆け本校では、オリンピック・パラリンピック教育推進モデル事業の指定を受け、平成27年度からオリンピック・パラリンピック教育を実施してきた。

初年度は、オリンピックの招聘、保健体育授業でのニュースポーツの導入等、スポーツのもつ楽しさを全校で共有できるような取組みを中心に行ってきた。平成28年度からは、都内全校で年間35時間以上の学習を教育課程上に組み込むことが定められた。

そこで本校でも、校内オリ・パラ教育推進委員会を新規設置し、保健体育だけでなく、総合的な学習の時間や他教科で多面的に学べるような工夫を、委員会を中心に検討し実施する方向になった。

本シンポジウムでは、これまでの本校の取組みの経緯を踏まえながら、校内での取組みの工夫、実践を通しての生徒の変容等を話題提供する。

2. 千葉県立東金特別支援学校高等部におけるオリパラ教育の授業づくり（古川文彦）

知的障害特別支援学校高等部のオリンピック・パラリンピック教育の現状と課題を先行的に実践されている東京都

を対象に調査を実施した。調査の中の1つに、授業づくりのための観点別シートの必要性が明らかになった。そこで、授業づくりのための観点別シートを東京都が掲げた4テーマ（オリンピック・パラリンピックの精神、スポーツ、文化、環境）×4アクション（学ぶ、する、みる、支える）の表を基に作成した。作成にあたっては、領域・教科等の担当教職員一人一人と話し合い、学校現場で実践されている内容を生かしてオリンピック・パラリンピック教育の考え方に置きかえて表の作成をすることができた。

本シンポジウムでは、総合的な学習の時間を展開し、生徒たちから学習したい内容として挙げられた卓球やゴールボールを題材に取り組んだ。調査で課題として挙げられた「支える」観点を取り入れることで、他者を理解し尊敬の念や友情等への育みにつながる実践事例を提示した。

3. 知的障害児者のアスリート育成と競技団体との連携（尾高邦生）

2016年に行われたリオデジャネイロパラリンピックには日本選手団として知的障害のある選手12名派遣された。報告者も日本代表選手団の水泳コーチとして帯同し、事前合宿からレースまでの支援を行った。

知的障害者のパラリンピックへの参加は、歴史が浅く種目数も限定され、その環境も十分とは言えない状況であり、知的障害者がパラリンピック等の競技会で活躍し、障害者スポーツが発展・充実していくためには様々な課題が散見される。

本シンポジウムでは、知的障害のある選手のパラリンピック競技大会に向けた取り組みを紹介し、選手を取り巻く環境や強化体制、大会中の支援の実際などを報告する。

また、新人発掘事業など、2020東京パラリンピックに向けた障害者スポーツのすそ野拡大について競技団体としての取り組みも紹介し、障害者スポーツの発展に向けた1つの視点である競技者育成について話題提供していきたい。

【指定討論】

知的障害特別支援学校におけるオリパラ教育の意義と今後の展望（牛尾眞一郎）

本シンポジウムでの話題提供やこれまで取り組まれてきた実践や資料をもとに、特別支援学校におけるオリパラ教育の基本的な考え方や今後の進め方、実践していくうえでの課題等について指定討論を行う。

また、当日は教員養成系大学における特別支援学校との交流等、オリパラ教育を実践していく保健体育科教員養成の取り組みについても合わせて報告する。

(WATANABE Takahiro, ISHIKAWA Atushi,
HURUKAWA Humihiko, ODAKA Kunio, USHIO
Sinithiro)